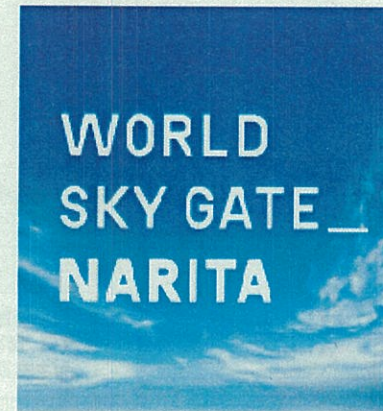


成田空港の現在と将来



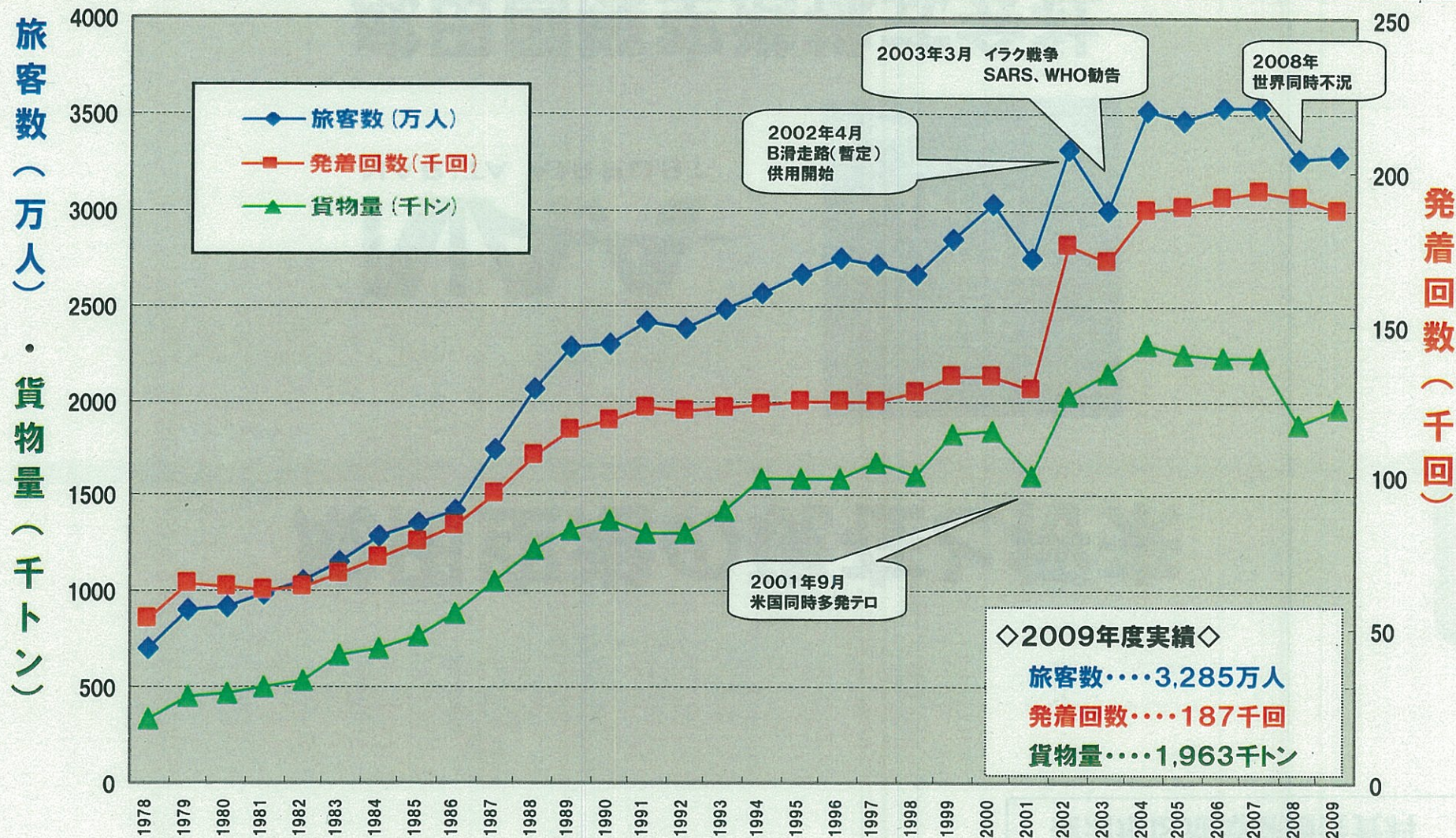
成田国際空港株式会社

2011年3月11日

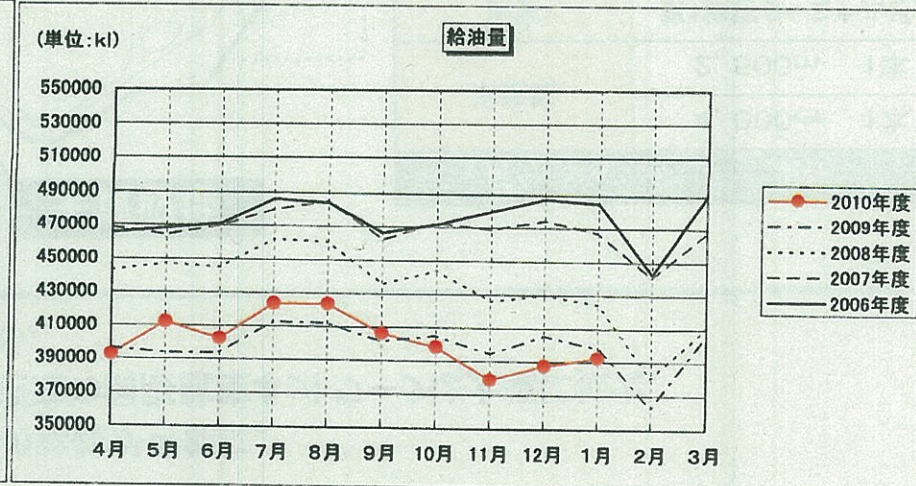
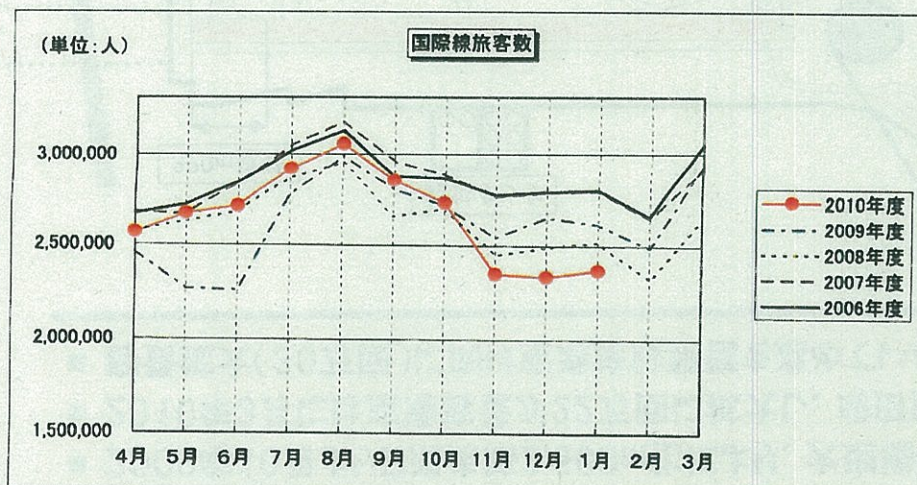
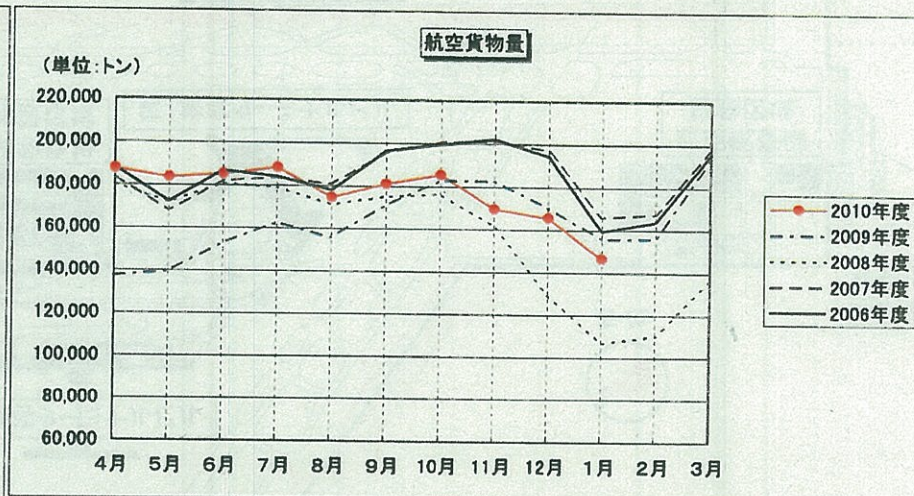
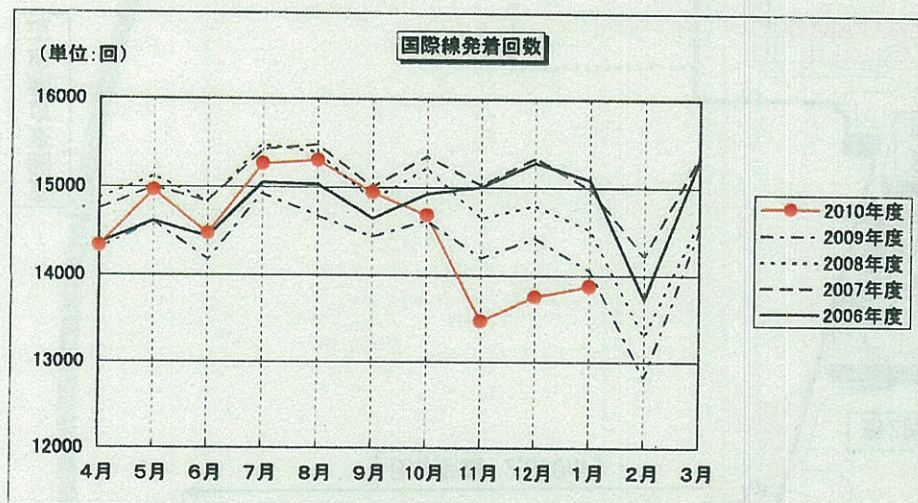
成田空港の運用実績推移 (1978年度～2009年度)

1

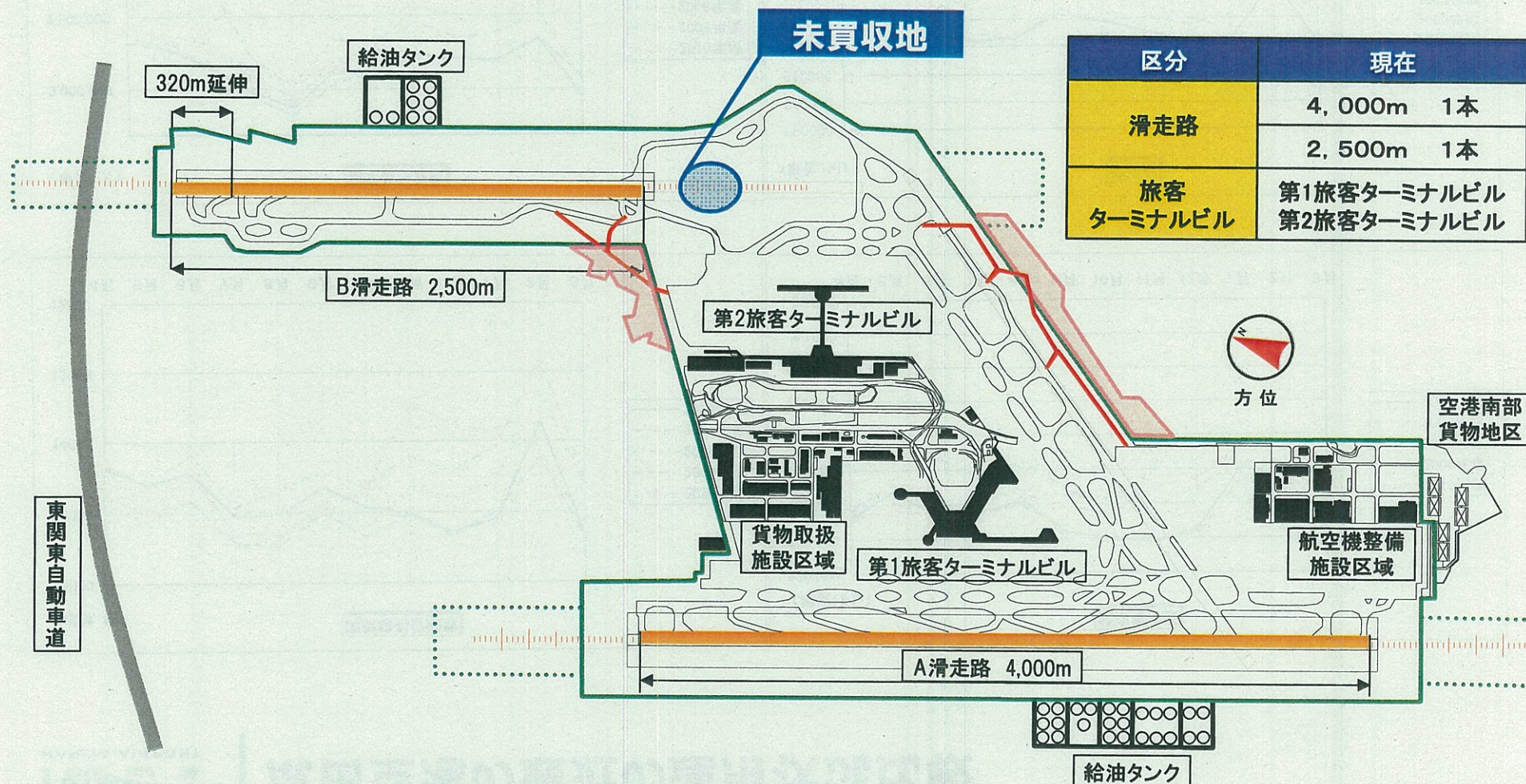
■ 開港時と2009年度の1日あたりの平均を比較すると、**発着回数**が約**3.1倍**、**旅客数**が約**4.0倍**、**貨物量**は約**5.2倍**となっている。

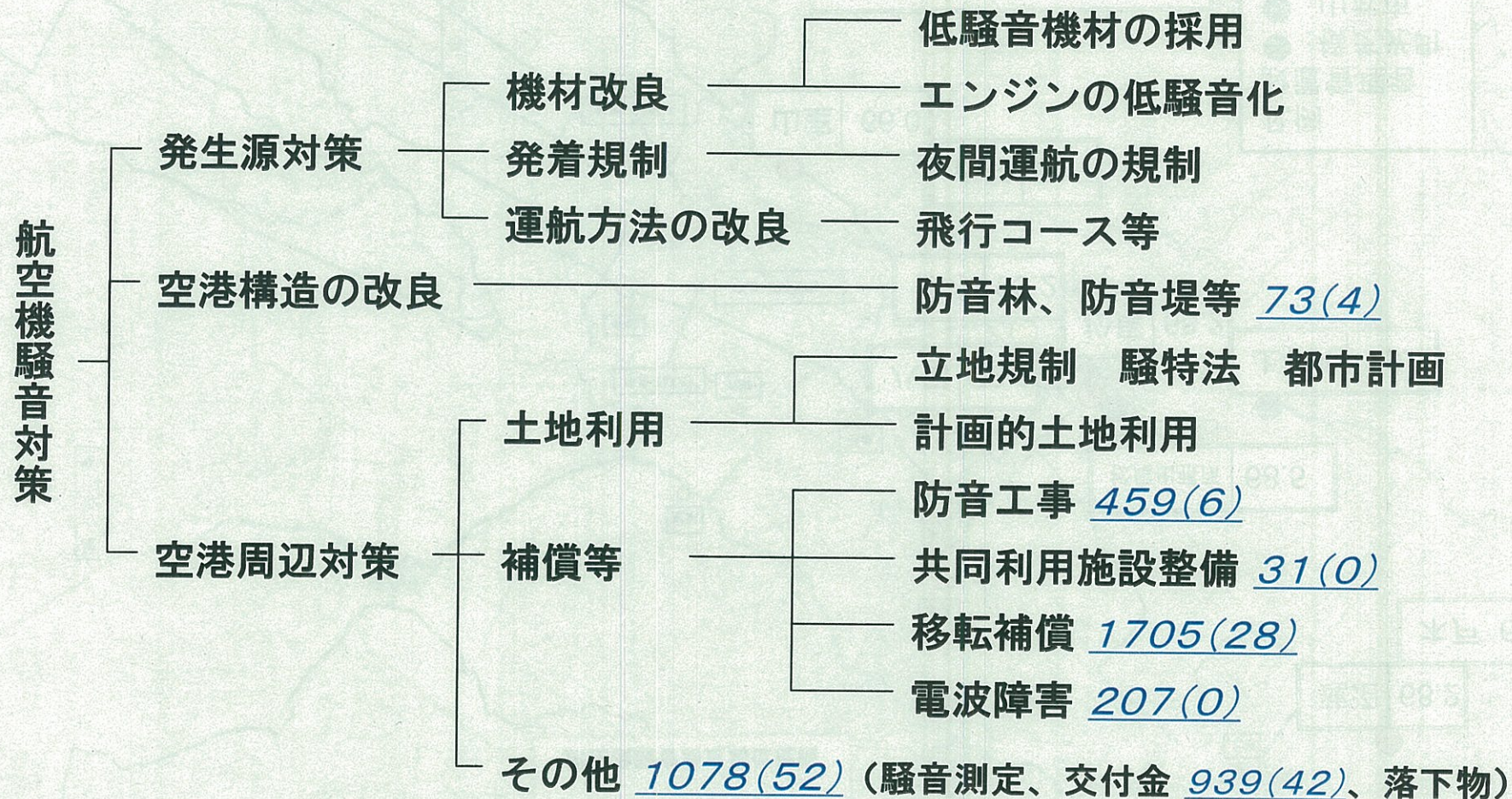


成田空港の最近の運用状況比較



- 2009年10月よりB滑走路2,500m化により、大型機の就航が可能に。
- 2010年3月には空港容量が22万回に拡大し、成田空港の国際航空ネットワークは大幅に拡大。
- 容量拡大(30万回)に向け空港施設整備を進めている。

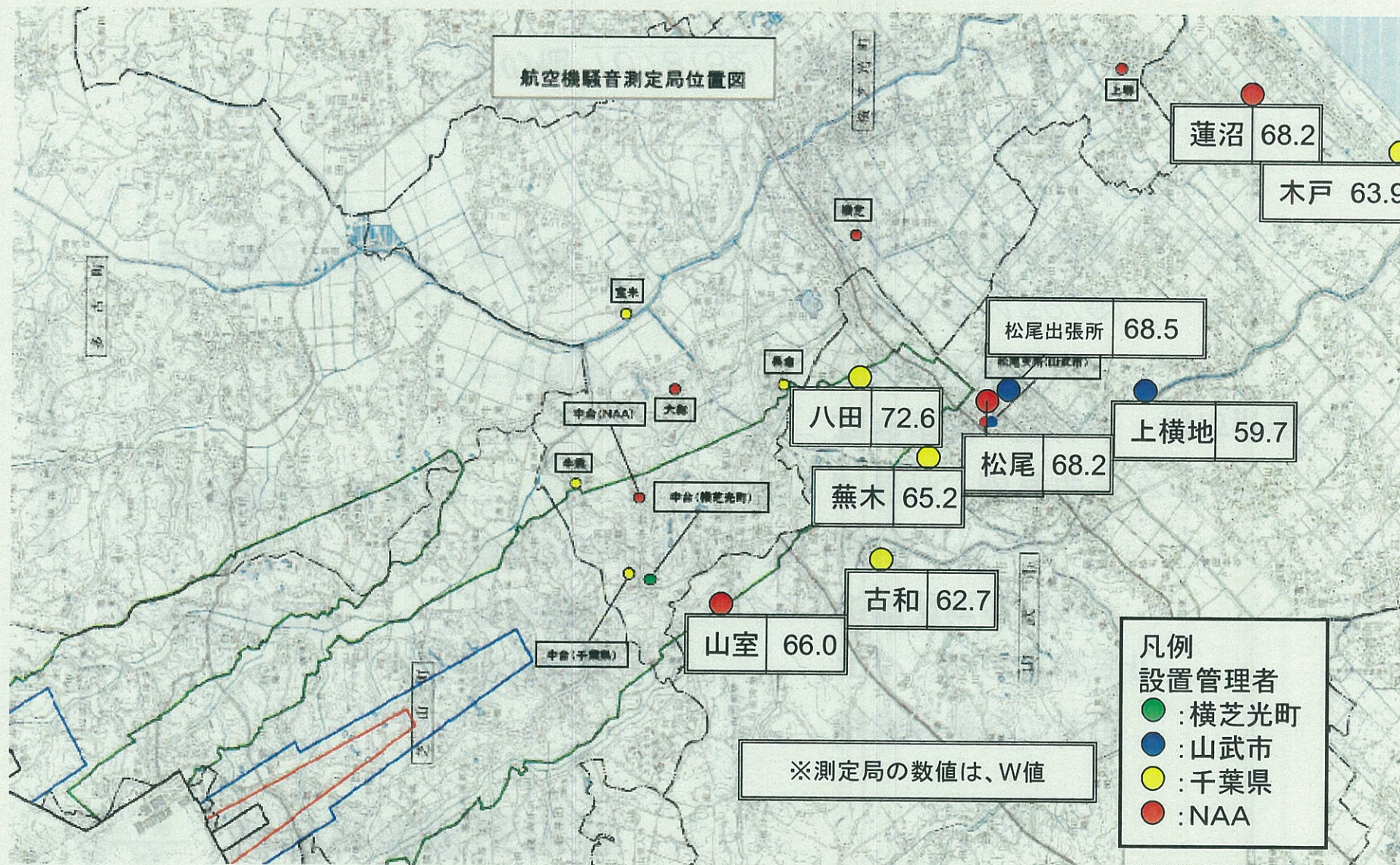




※下線青色数字は環境対策事業費の2009年度末までの累計 = **約3553億円** [単位：億円]

※ () 内数字は2009年度環境対策事業費 = **約90億円** [単位：億円]

航空機の離着陸に伴う騒音の実態を把握するため、成田空港周辺では104局(NAA33局)の測定局で24時間体制で騒音の監視を行っている。なお、山武市には9局の測定局が設置されており、全ての測定局で騒防法の基準内に収まっている。



山武市内には、NAAによるものが3局、千葉県によるものが4局、そして山武市によるものが2局の合計9局の常時測定局が設置されている。

No.	局名	設置者	区域指定	20年度	21年度
90	山室	NAA	区域外	66.8	66.0
93	八田	千葉県	第1種	73.5	72.6
94	古和	千葉県	区域外	63.4	62.7
96	蕪木	千葉県	区域外	66.1	65.2
98	松尾	NAA	区域外	69.2	68.2
99	松尾出張所	山武市	区域外	68.9	68.5
101	蓮沼	NAA	区域外	68.9	68.2
102	木戸	千葉県	区域外	65.0	63.9
103	上横地	山武市	区域外	61.5	59.7

単位: WECPNL

① 第1回成田国際空港都市づくり推進会議 (2008年1月30日)



・第2回推進会議にてNAAに対し容量拡大について説明を要請(2月25日)

② 発着回数30万回のポテンシャルを説明 (2008年3月25日)



・第3回推進会議で、NAAから『成田空港の容量拡大の方向と可能性について』を30万回と説明

③ 地域への説明 (2009年12月25日)



- (1) 飛行コースについて(航空局)
- (2) 30万回時における予測騒音コンターについて(NAA)
- (3) 環境対策・地域共生策の基本的な考え方について(NAA)
- (4) 空港容量拡大に向けた施設整備について(NAA)

地域との協議

④ 地域からの提案 (2010年7月13日) 成田・芝山の首長、議長、地元選出県議

- (1) 騒防法第1種区域及び谷間地域の住宅防音工事内容の拡充
- (2) 住宅防音工事助成家屋及び空調施設に係る維持管理費の補助制度の充実
- (3) 騒音地域の固定資産に係る補助制度の充実
- (4) 上記施策実現のための財源確保



⑤ 容量拡大(30万回)について合意(2010年10月13日)

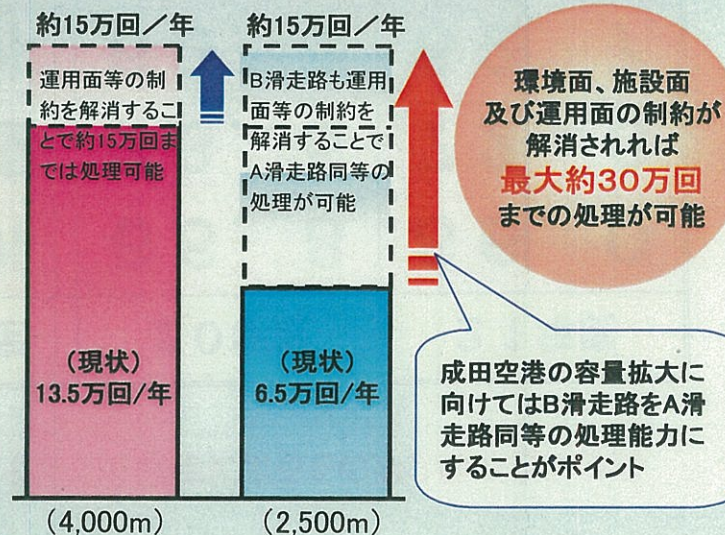
四者協議会で『容量拡大(30万回)に係る確認書』を締結

成田国際空港都市づくり推進会議

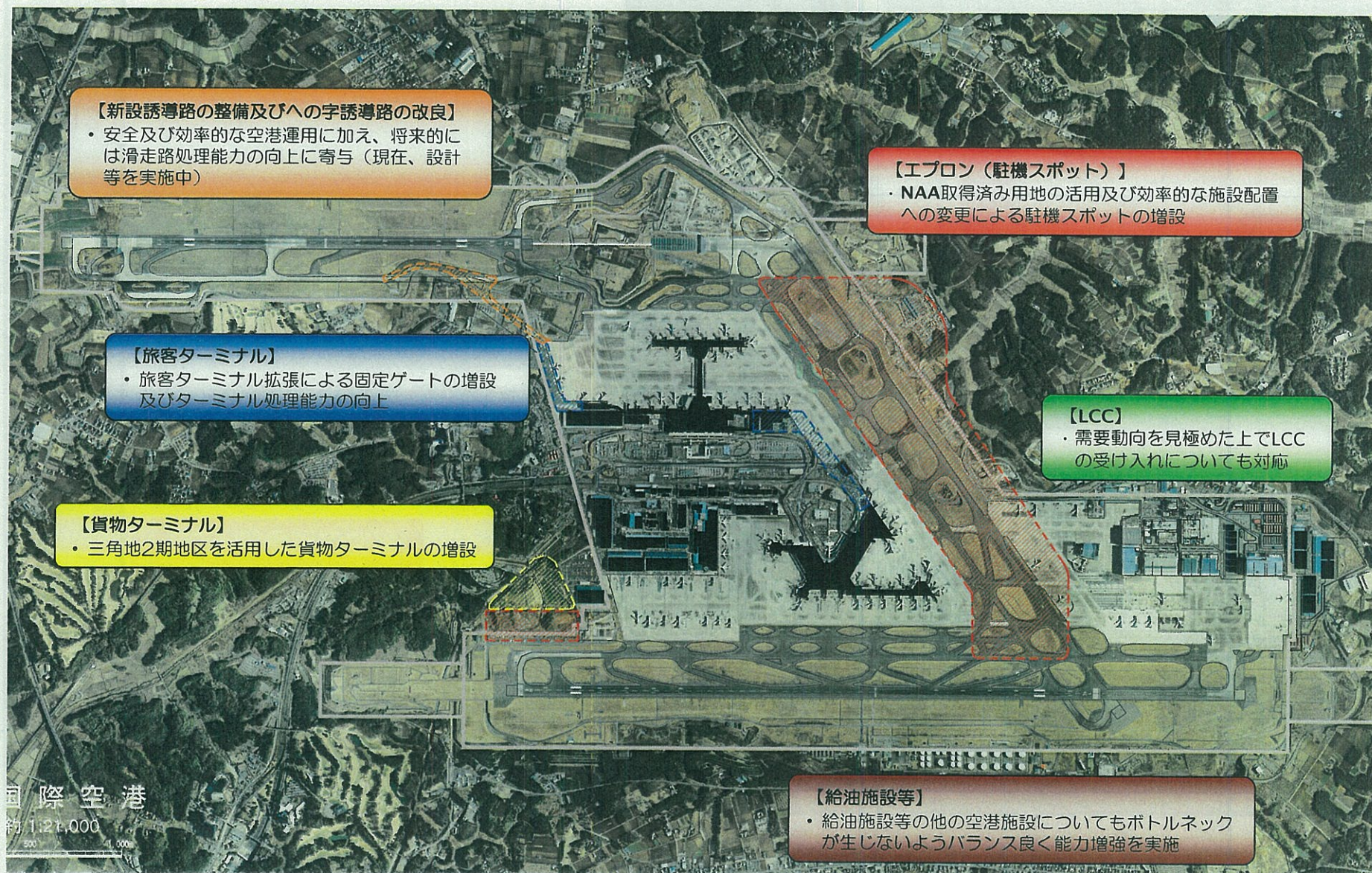
成田空港周辺9市町が「国際空港都市づくり」を目指して、交通インフラ整備、交流促進、産業集積、住みよいまちづくり等の取り組みを連携して推進していくために設置



成田空港のポテンシャル -最大処理能力の可能性-



※政府は、容量拡大に向けた NAA への取り組みについて支援するとともに、地元の理解と協力を得つつ検討を進めることを2009年3月31日に閣議決定。



年度	施設面・運用面の課題	年間発着能力
2009	北伸計画の供用	22 万回
2010	運用制限の緩和 への字誘導路の改善	
2011	同時離着陸運用の導入 駐機場の増設	25 万回
2012	新設誘導路の供用 駐機場の増設	27 万回
2013		最速で2014年度までに30万回対応の施設整備が可能
2014	駐機場等の増設	30 万回